科目ナンバリング	U-LAS00 20003 LJ34				
授業科目名<英訳>	人間実践論Ⅰ Philosophical Theory of Human Acts I		担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	佐藤　義之
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	哲学・思想(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	月4	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

フランスの現象学者メルロ=ポンティは、もっぱら知覚論や身体論において、主体の事実的なあり方、主体によって生きられた世界の姿について、斬新な見解を示した。『知覚の現象学』の時期の彼の思想の流れを知覚論、身体論を中心にたどってゆきたい。

[到達目標]

メルロ＝ポンティを通じて、知覚論、心身問題を中心にした哲学の代表的な議論を学ぶ。そのことで哲学的なものの見方を習得する。

[授業計画と内容]

総題：メルロ＝ポンティの思想
（１）現象学とは何か
　現象学という立場（第１～２回）
（２）身体:世界に住み込む、意味により組織化された身体
　身体の謎――導入（第３回）
　機械的身体観と現実の身体（第４～５回）
　身体図式（第６回）
　実践の主体としての身体――ハイデガーを手がかりに（第７回）
　身体の主体と身体（第８～９回）
　実存と事実性（第10回）
（３）実存による知覚
　古典的知覚観批判（第11回）
　実存による知覚（第12回）
（４）他者と間身体性
　サルトルの他者論（第13回）
　メルロ＝ポンティの他者論（第14回）
フィードバック：詳細は別途連絡する（第15回）。

[履修要件]

哲学・思想系の基礎論科目のなかから「哲学」、「倫理学」、「論理学」、「西洋社会思想史」、「科学論」、「宗教学」のどれかひとつ以上を履修済みであり、すでにこの種の学問に触れて基本的な考え方についておおよその知識を持っていることが望ましいため、一回生の受講は原則的に認めない。

[成績評価の方法・観点]

授業に関連するレポートを２回提出してもらう予定であるが、そのレポートによって評価する。

人間実践論Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

人間実践論Ⅰ(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

関心のある者は、授業中に紹介した参考書を読んで、自ら学習を深めてほしい。

[その他（オフィスアワー等）]

受講希望者多数の場合は抽選により受講者を制限することがある。

[主要授業科目（学部・学科名）]